



「Diary: March 5th '00」
木版・シルクスクリーン 50×34cm 2000年

野田哲也 (のた・てつや)

1940年熊本県生まれ。
1963年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。65年大学院修了。78年版画科研究室講師。81年助教授、91年から教授。2003年紫綬褒章受章。
「日記」をテーマにした一連のシリーズは、日常的な生活風景のなかから作者自身の目にとまった人物や静物を、写真でスケッチしたうえで創作表現を加えたものである。シルクスクリーンで転写するとともに木版を併用した技法は高く評価されている。

東京芸術大学広報誌 藝大通信第7号

編集発行 東京芸術大学広報委員会

編集委員 野田暉行 (副学長・音楽学部作曲科教授)

長谷部浩 (美術学部先端芸術表現科助教授)

渡邊健二 (音楽学部器楽科助教授)

太田和良幸 (事務局長)

アートディレクター 蓮見智幸 (美術学部デザイン科助教授)

制作 株式会社 G凡社

発行日 平成15年12月1日

お問い合わせ先

東京芸術大学総務課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話 03-5685-7509 FAX03-5685-7760

e-mail jkikaku@off.geidai.ac.jp URL <http://www.geidai.ac.jp>

第7号目次

- 3 11 **特集 実践と成果**
芸大で受けた教育について
アーティスト4人があますところなく語る
小谷元彦 / タナカノリユキ / 江口玲 / 藤村実穂子
- 12 13 NEWS 2003.8~2003.10
「ヴィクトリアン・ヌード」展の意義 小野寺玲子
- 14 15 **タイムカプセルに乗った芸大**
【第7回】1961~1970年
佐藤道信 東京芸術大学美術学部1968年
瀧井敬子 東京芸術大学音楽学部1969年
- 16 17 **開かれた大学**
モーニングコンサート
木曜日午前十一時に演奏会は始まる 前田信吉
- 18 19 **学生のいる風景**
アートパス取手2003
学生は「学生のいる風景」をどう構築するか 笹原晃平
- 20 23 **芸大短信2003.12~2004.3**
冬から春への大学美術館
大藪雅孝退官記念展 /
「赤松麟作とその周辺」展
- 22 23 冬から春への奏楽堂
コンサート 楽器シリーズV 藝大美術館所蔵の銘器

藝大通信

No.07

TOKYO GEIDAI
東京芸術大学広報誌

第7号刊行にあたって

芸大通信ではこれまで、芸大のキャンパス内のことをいろいろと紹介してまいりましたが、今号では少し視点を変え、外で活躍する卒業生の姿をご紹介したいと思います。言ってみれば、卒業生による芸大の逆紹介ということになります。

東京芸術大学の教育目的が、一つのプロトタイプを完成して世に送り出すものでないことはもとより言うまでもありません。多岐に分化した科目のヴァリエティもさることながら、そこから巣立っていく人達のヴァリエティはその分類を遙かに超えたもので、各個人の様相はまさに多様であります。それこそが芸大の芸大たる特色だと言ってもよいでしょう。

その多様さは一口に語れるものではありませんが、今回は内外で活躍する百花繚乱の方々の中から、若い世代に属する4人の卒業生に登場してもらい、自分にとっての芸大とは何であったのか、芸大はどうあるべきなのか等々、自由に語っていただきました。芸術と学校という命題の一端が垣間見えるかもしれません。

藝大通信編集委員長
副学長 (企画担当)
野田暉行